



令和2年度 東京都北区立堀船中学校

堀船中だより

心身ともに健康にして、国際的視野に立って社会に貢献し、自立した人を育成する。

教育目標

自ら学び 自ら考え 自ら行動できる生徒

令和2年10月 第7号

校長 阿久津 光生

〒114-0004

東京都北区堀船 2-23-20

Tel 03-3911-8817

<9月7日(月) 全校朝礼 運動会全体練習がスタート>

9月7日 全校朝礼及び運動会全体練習を行いました。朝礼の校長講話の内容を掲載したいと思います。

「コロナ禍の中、競技種目にも変更を加えて、10月9日金曜日の午前中に実施することになりました。保護者の皆さんの来場も1~2名に限り、ご来賓の入場もご遠慮いただき、競技種目も例年通りとはいかない等、いろいろなことが制限されています。生徒のみなさんや保護者の皆さん、そして日頃から応援してくださっている地域の皆さんには、本当に申し訳なく思います。しかし、今年度に入って、全校生徒で取り組む行事が、やっとな行われようとしています。できる種目をみんなで、協力してやっていきましょう。そして運動が得意な人も不得意な人も、運動会という一つの行事ができることの喜びを感じて、思い出に残る、楽しい運動会にしていきたいと思います。そのためにも、各自の健康や安全には十分気をつけて、運動会練習に励んで行きましょう。」

その後、運動会実行委員長が今年度の運動会のスローガンを発表してくれました。スローガンは『Catch the victory~団結力で全ての壁をぶち破れ~』です。運動会実行委員会の皆さんが放課後、真剣に会議を積み重ねて頑張ってくれています。本当にありがとうございます。



<9月23日(水) 道徳授業地区公開講座を行いました。>

9月23日(水) 道徳授業地区公開講座を行いました。講師には、道徳教育に大変造詣の深い、麗澤大学大学院准教授 鈴木明雄先生をお招きして行いました。コロナ禍での実施で、公開講座でありながら、保護者・地域の皆さまの参観をご遠慮願う形での開催となりましたことを、お詫び申し上げます。公開はできませんが、各学年より、学年だより等で授業の様子をお知らせすることにいたしました。

今回の道徳授業地区公開講座は全学年「生命の尊さ」について考えました。1年生は、主題「決断! 骨髄バンク移植第一号」(資料名「プロジェクトX 挑戦者たち14」)、2年生は、主題「いのちを考える」(資料名「奇跡の1週間」)、3年生は、主題「いのちを考える」(資料名「あなたはすごい力で生まれてきた」)です。

講師の鈴木明雄先生からは、来年度から完全実施の新学習指導要領における道徳科の改定のポイントや、今後の道徳教育の在り方についても教えていただきました。今回、ご指導いただきましたことをもとに、今後とも、さらに道徳科の授業の研究に努めて参ります。



<野球部 北区秋季大会3位おめでとうございます。>

9月19日(土)に野球の秋季大会2回戦、堀船・東京成徳中对桐ヶ丘中の試合が桐ヶ丘中学校の校庭で行われ、堀船・東京成徳中は5対4の見事な逆転勝利をおさめました。3回戦(準決勝)は、9月21日(月)に明桜中と対戦し、残念ながら負けてしまいましたが、3位に入賞しました。本当におめでとうございます。これからも頑張ってください。



渋沢栄一の教育事業

栄一は、日本の経済の礎を築いたばかりでなく、実業界以外の幅広い分野で活躍しました。国づくりのためには、教育の整備が不可欠だと考え、様々な学校の設立に携わりました。

【実業・商業教育への支援】

栄一が設立に関わった学校には東京商法講習所や大倉商業学校などがあり、特に実業教育に力を入れました。当時の商人を経済人として育成し、地位を向上させるためにも、実業教育が必要だと考えたからです。



商法講習所石碑



商法講習所 提供：一橋大学

明治8年(1875)には、森有礼が中心となって銀座尾張町に商法講習所が設立されましたが、まもなく存続の危機に立たされ、栄一が会頭を務める東京商業会議所(現・東京商工会議所)が運営を行いました。商法講習所では英語教育が重視され、英語で授業を行なうとともに、銀行や模擬貨幣を用いた商取引の実践授業も行われました。この商法講習所が現在の一橋大学(現・国立市)の前身であり、銀座6丁目の複合商業施設GINZA SIXの入口に石碑があります。

また、栄一は大倉財閥を築いた大倉喜八郎によって創立された大倉商業学校の創立委員にも名を連ねました。大倉商業学校は、現在の東京経済大学(現・国分寺市)の前身であり、虎ノ門にあるThe Okura Tokyo(旧ホテルオークラ)の敷地付近に石碑が建てられています。

【女子教育への支援】

栄一は、海外で女性が活躍している様子を見て、女子教育の必要性を感じ、伊藤博文や勝海舟らとともに女子教育奨励会を創設し、翌年には東京女学館を設立しました。

東京女学館(現・渋谷区広尾)は、千代田区永田町の衆議院議長公邸の石垣に発祥の地のプレートが埋め込まれています。

(右) 成瀬仁蔵 提供：日本女子大学成瀬記念館

【日本初の女子の高等教育機関の誕生】

さらに1896年、大隈重信を介して成瀬仁蔵と面会し、女子大学校設立運動の協力を要請された栄一は、成瀬の熱意に動かされ、1901年に日本女子大学校(現・日本女子大学)の創立に携わりました。現在の文京区目白台に校舎が建てられましたが、この土地は栄一とともに設立に尽力した女性実業家広岡浅子の実家である三井家が提供しました。栄一は、この日本女子大学校には多額の寄付を行うとともに、1907年には、寮を寄贈しています。純洋風のこの寮は、栄一自ら「晩香寮」と命名しました。成瀬亡き後も、卒業式や創立記念日に来校し、生徒に講話を行いました。



栄一は、1931年4月から死去する11月まで、91歳の高齢で日本女子大学校の第3代校長を務めました。『日本女子大学学園辞典』には、「12月18日、講堂において追悼会が開催された。一堂に会した生徒たちは、近代日本を代表する実業家であると同時に『私達のやさしいお祖父様』であった校長の死を悼んだ。」とあります。

栄一の著した「論語と算盤」にも、第九章「教育と情誼」には、「女性にも男性と同じ国民としての才能や知恵、道徳を与え、ともに助け合っていかなければならない。」とあります。この思いを実現したのが、日本初の女子の高等教育機関である日本女子大学校の創立なのです。



大正3年の卒業写真 提供：日本女子大学成瀬記念館
左から数えて12番目が成瀬、次いで栄一、大隈重信、ノリタケで有名な森村市左衛門の順で写っています。創立に尽力された方々です。(右図は拡大したもの)

